

# 病気に強い麦茶用六条大麦新品種「カシマホープ」を奨励品種に採用しました

農業総合センター農業研究所

## 【研究の概要】

本県で栽培されている麦茶用六条大麦品種「カシマゴール」は、麦茶の加工適性に優れますが、土壌伝染性のオオムギ萎縮病に弱く、細麦が発生しやすいこと等により、収量・品質の低下が問題となっていました。

そのような状況の中、近年、農研機構作物研究部門が育成した新品種「カシマホープ」は、オオムギ萎縮病等の病気に強いいため、「カシマゴール」からの品種転換が期待されていますが、本県においてその特性は未検討であったため、県農業研究所において約6年間栽培試験を行い、生育や収量、麦茶の加工適性を調査しました。

その結果、「カシマホープ」は「カシマゴール」と比較して、麦茶加工適性は同等に優れ、生育及び収量は同等以上に優れていたため、本品種を県の奨励品種として採用しました。

## 【研究内容】

新品種「カシマホープ」の栽培試験を行い、本県における「カシマホープ」の栽培特性（生育や収量等）や麦茶の加工適性について明らかにしました。

## 【研究成果】

新品種「カシマホープ」を既存品種「カシマゴール」と比較検討した結果、栽培上の特徴及び麦茶の加工適性は、以下の通りとなりました。

- ① 稈長（地際から穂首までの長さ）は同程度～長いですが、稈が折れにくく、収穫時に倒れにくいことが分かりました（表）。
- ② 整粒歩合（2.2mm以上の粒の重量の割合）は同程度～高く、収量は105～204%で多収でした（表）。
- ③ オオムギ縞萎縮病及びオオムギ萎縮病に強く、これらのウイルスに汚染された圃場でも安定した生育が得られます（データ略）。
- ④ 麦茶を製造する加工会社に対して、試験的に本品種で麦茶の製造を依頼し、評価してもらったところ、麦茶加工適性は同等との評価が得られました（データ略）。



「カシマゴール」 「カシマホープ」  
登熟期の草姿（令和6年5月2日撮影）



「カシマゴール」 「カシマホープ」  
麦茶粒の外観

以上より、「カシマホープ」の優れた栽培特性や麦茶加工適性を明らかにできたことから、県の奨励品種として採用することとしました。

表 「カシマホープ」の生育・収量結果（試験場所：農業研究所内ほ場（水戸））

施肥水準	品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	倒伏程度 (0~5)	収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	タンパク質含有率 (%)
標肥	カシマホープ	4/3	5/25	86.7	4.4	574	0.2	632	94	710	30.5	11.4
	カシマゴール	4/4	5/24	88.6	4.2	678	1.0	604	89	733	28.2	11.1
多肥	カシマホープ	4/9	5/27	87.9	4.4	696	2.9	219	88	719	29.1	11.3
	カシマゴール	4/9	5/27	85.5	4.1	883	3.7	107	84	707	27.4	11.2

注) R1～4年播種(標肥)、R5～6年播種(多肥)試験の結果。多肥料試験では倒伏の影響により収量が低くなっている。

## 【将来の展望】

「カシマホープ」は「カシマゴール」に替えて、県内全域の大麦栽培農家を対象に普及推進していく予定です。特に、オオムギ縞萎縮病及びオオムギ萎縮病が発病しているほ場では、当該病害の被害を抑えることが可能になるため、収量・品質の向上が図られることにより、農家所得向上につながることを期待されます。